

お母さんは大学生

福島県 福島大学附属小学校 四年

久能 和佳

私のお母さんは大学生だ。正確には、「大学院」生。お母さんからしようげきの発表があったのは今年の二月。

「お母さんはね、春から大学で勉強することにしたよ。」

私はわけがわからなかった。お母さんはとくに大学を卒業している。そして、小学校の先生として働いている。それなのになぜ？というところ？何のため？頭の中が「？」でいっぱいになった。お母さんは笑って続けた。

「先生もね、子どもたちに負けないように、学び続けなければいけないの。」

四月。本当にお母さんは大学に入学した。入学式では、「びちびちの若い」お兄さんやお姉さんたちといっしょだったから、ちよつとはずかしかったらしい。それでも、お母さんとはともうれしそうだった。

お母さんが大学生になって変わったことその一。朝、家を出る時間がおそくなったこと。だから、私のことをバス停まで送ってくれる。私は、バス停に着くまでの間に、その日楽しみなこととか、授業の予定をお母さんに話す。とてもいい時間だ。大学生ばんざい！

変わったことその二。リビングに分厚い本が何冊も置かれるようになったこと。お母さんがよく言う「文献」というものらしい。時間があれば読んでいる。読むのに何日かかるのかわからないような本もある。大学生って大変だな。

変わったことその三。お母さんがパソコンに向かう時間が

ふえたこと。先生をしているときは、赤ペンとか鉛筆とかボールペンで、何か書いたり丸つけをしたりしていることが多かった。「ザ・先生」って感じ。でも今はパソコンに向かっていることが多い。みけんにはしわ。一体何をしているのか聞いてみた。すると、

「今までやってきたことを見つめ直して、文章にまとめているの。これを読んだ他の先生の役に立つといいなあと思って。」

という答えが返ってきた。へえ、お母さんがやっている勉強は、自分のためでもあり、他の先生のためでもあるんだ。かっこいいな。

私は知っている。お母さんが、私が寝た後夜中まで本を読んだりレポートを書いたりしていることを。それでも朝、笑顔で「おはよう」と私を起こしてくれていることを。大学の授業の合間にスーパードで買い物をして、また大学にもどっていることを。研究室に私と弟の写真をかざっていることを。どんなに大変なことがあっても、やりたいことをやっているお母さんはキラキラがやいていることを。

お母さん、まっすぐで一生けん命なお母さんが大好きだよ。そんなお母さんを、私も心から応援しているよ。私も夢に向かってつき進むからね。私のお母さんは大学生。大人になっている学び続けるスーパードウーマン。かっこいいお母さんでいてくれてありがとう。